保健活動リレーエッセイ

“まちの健康支えます！”

熊本県国民健康保険団体連合会　保健師　可徳美里

国保連合会の保険者支援を通して、住民の命と健康を守りたい

熊本県国保連合会に入職して１年半がたちました。看護学生の頃、保健師や訪問看護師など、地域で働く看護職に憧れ、3・4年生では地域看護学のゼミを選択し、実習にもたくさん行かせていただきました。ちょうどその頃「特定健診・特定保健指導」が始まった時期で、未熟だった私には健診の慌ただしさばかりが印象に残り「保健師っていったい何をする人なんだろう？　検査なら病院でできるじゃない。きっと病院の方が一人ひとりの患者さんに向き合える」と考え、看護師として病院に就職することにしました。

そこでは手術室に配属されたのですが、いわゆる“重症化”した結果の方々が毎日運び込まれてきました。そんな方々を見ていると、「予防がしっかりできていれば、こんなに苦しまなくていいのに」と、予防の大切さをひしひしと感じるようになり、やはり「保健師になって住民さんの命と健康を守りたい」と、本会に就職することにしました。

このような経緯から、希望を持って本会に入ったのですが、入職後すぐに発生した熊本地震で早くもくじけそうになりました。県内では甚大な被害を被った方が大勢いるのに、すぐに動けない自分自身の無力感、「病院を辞めずにいれば第１陣で派遣してもらったのに…」といったもどかしさやいら立ちでいっぱいでした。しかし本会では、発災直後には被災が大きいであろう市町村に対して、保健師の方がすぐに活動できるよう、人工透析をしている方、インスリン療法をしている方、COPD の方等のリストを作成し、提供しました。また、発災からしばらくたってからは、微力ですがいくつかの市町村に支援に入らせていただきました（この時は本当にお役に立てず、かえっていろいろと教えていただいてありがとうございました）。裏方としての支援が住民さんの力になっていると感じられ、自分が本会に入った意味を感じることができる一場面でした。

国保連合会の保健師には対象者や担当の住民さんはおらず、普段は市町村の保健師の方や国保の担当の方に対して保険者支援という形でお手伝いさせていただいていますが、いつでも住民の方の命と健康を考えて支援しているつもりです。

うれしいことに、最近は国でも国保連合会の保険者支援の役割に大きな期待を寄せてくださっているようです。まだまだわからないことだらけで、与えられた業務をこなすことに精一杯の部分もありますが、いろいろなことを学び吸収し、早く一人前の国保連合会保健師になりたいです。すぐには結果が見えない保健活動ですが、10 年後の住民さんの笑顔を思い浮かべながら、これからもがんばります。

保健事業支援課保健事業係のメンバー
（筆者は右から３人目）

次号執筆者は未定です。